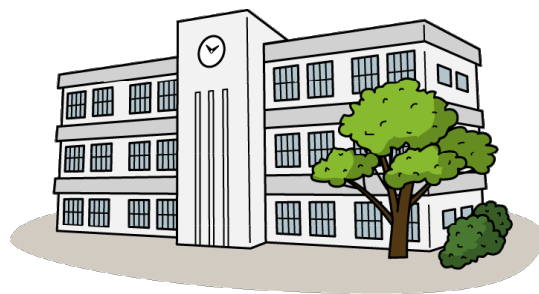
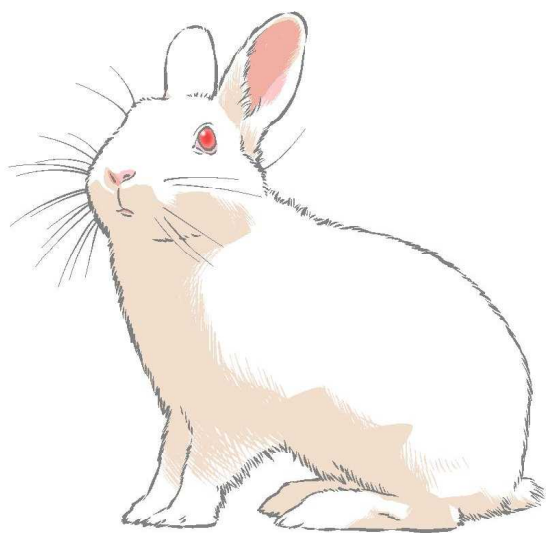


# うさぎとにわとり



横浜市獣医師会

# 目次

はじめに…………… 2

**うさぎ**…………… 3

うさぎのからだ…………… 4

うさぎのくらし…………… 5

うさぎの飼育小屋…………… 6

うさぎのたべもの…………… 7

うさぎのだきかた…………… 8

うさぎの四季…………… 9

**にわとり**…………… 10

にわたりのからだ…………… 11

にわたりの飼育小屋…………… 12

にわたりのたべもの…………… 13

飼育の注意点…………… 14

おわりに

# はじめに

動物を飼育することはほんとうに楽しいことです。

しかし、ほんとうに大変なことでもあります。

飼育している動物にあったすまいや場所を用意してやらなければ、動物はとても不安です。

飼育している動物にあった食べ物を用意してやらなければ、体をこわしてしまいます。

飼育している動物のいやがることをしては、動物はつらくてどうしてよいか分からなくなります。

なにをすればよいのか、なにをしないほうがよいのか、飼育している動物のことを、詳しく知る必要があります。

でも、知っただけでは動物をうまく世話をすることはできません。

毎日、毎日、欠かさずに動物のめんどうをみなければなりません。

食べ物や水を与え、元気かどうか、病気やけがをしていないか気を付けてみなければなりません。

そのためには、責任をもてる人が、長い間みる必要があります。

もし、それができないとき、だれかがかわりばんこに世話をしなければなりません。

そして、自分がみたことを次の人に伝えなければなりません。

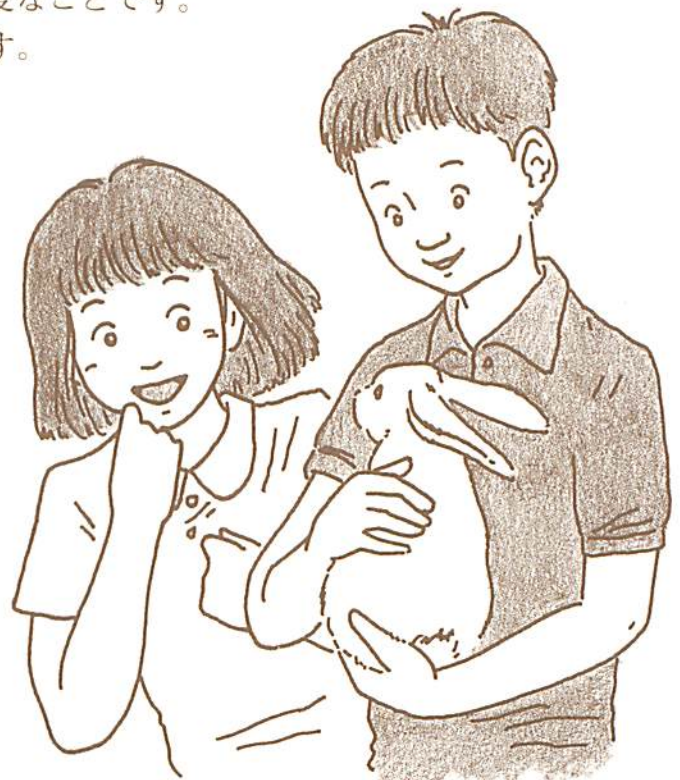
そうです。飼育日誌が必要です。

元気だったか、食べ物はよく食べていたか、水は飲んでいたか。

一匹一匹、一頭一頭、一羽一羽について必要です。

動物を飼育することはほんとうに大変なことでもあります。

しかし、ほんとうに楽しいことでもあります。



# うさぎ

うさぎは昔から、世界中にすんでいます。

長い耳、ポンポンみたいなしっぽ、

ふさふさとしたやわらかい毛、

ほんとうにかわいらしい動物です。

世界中の人たちに愛され、

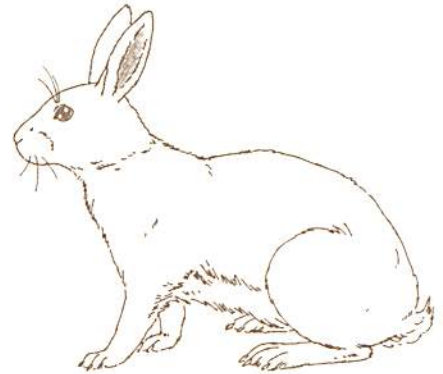
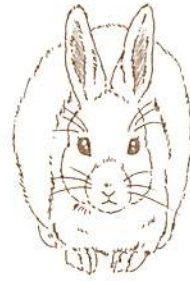
数多くのむかしばなしやものがたりにでてきました。

でも、よわい動物です。

そんなうさぎのことを、よく知って、よくみて、

うさぎとなかよくなりましょう。

うさぎにいっぱいお話してください。

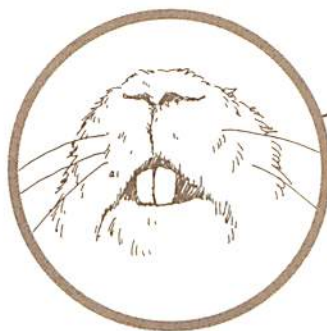


うさぎをよく知らないとうさぎを好きにはなれません。

うさぎをよく知らないとうさぎの好きなことがわかりません。

うさぎをよく知らないとうさぎのいやなことがわかりません。

うさぎをよく知って上手に飼ってください。



# うさぎのからだ

おおきな よく きこえる 耳。  
ながく つよい 足。  
たべものが もてる 手。  
かたい ものでも かじる ことが  
できる 歯。  
あかい めを して いるのは しろ  
うさぎ。



みみはウサギにとって大切なところ  
です。小さい音をよく聞き取り、早く危険を知るための  
耳です。  
身を守るのは、逃げ足だけ。  
しかし、飼われているうさぎを驚かしたり、  
追い回したりすると、逃げ場のないウサギは  
どうしてよいか分からなくなります。

まえばもんし じょうげほん ぜんぶ じょうげほん  
前歯(門歯)は上下で6本、全部で上下28本。  
もんし ねんかん いっしょう  
門歯は1年間で10~12cmのび、一生のび

つづけます。  
食べ物をかじることによって、歯をすり減らし  
長さを保っています。  
やわらかいものばかりだと歯の形が変になります。  
歯がのびすぎると口や唇を傷つけます。

あかい めを しているのは色素がないため、  
目の奥の血管が透けて見えるからです。

まえあし みじか うし あし なが  
前足は短く、後ろ足が長い。  
うし あし きんにく はったつ りよく  
後ろ足の筋肉は発達し、キック力がすごく、  
すばらしいジャンプを見せます。



# うさぎのくらし

うさぎには 「あなうさぎ」と 「のうさぎ」が います。

ピーターラビットは 「のうさぎ」です。

みんなの 学校や 家に いるのは 「あなうさぎ」です。

「あなうさぎ」は あなほりが 大好きです。

あなの なかで おすと めすが なかよく くらしします。

オス 同士は けんかを することが あります。

そのために けがを することも あります。



イエウサギの祖先はヨーロッパアナウサギです。  
夜行性動物で、乾燥した場所に棲んでいたため、  
夏の間の直射日光と湿気には気を付けてください。

地中に巣穴を掘って、群れで生活しますから、  
飼育は穴が掘れる場所で飼育しましょう。

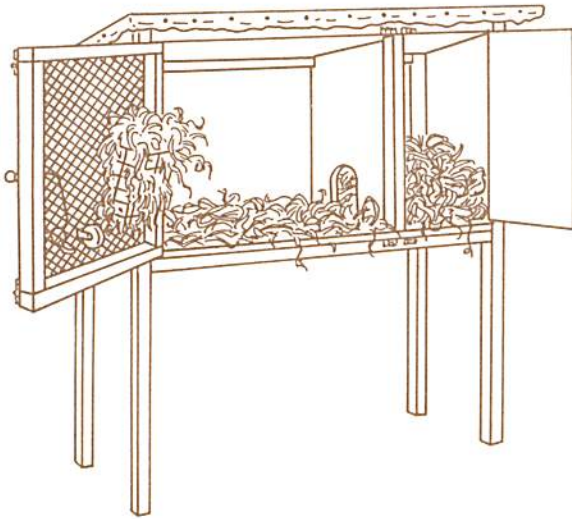
成長したオスウサギは、縄張り争いから  
けがをするくらいの激しい喧嘩をします。

夜行性動物：

夜に餌を探したり  
活発に動く動物を  
夜行性動物といいます。

# うさぎの飼育小屋

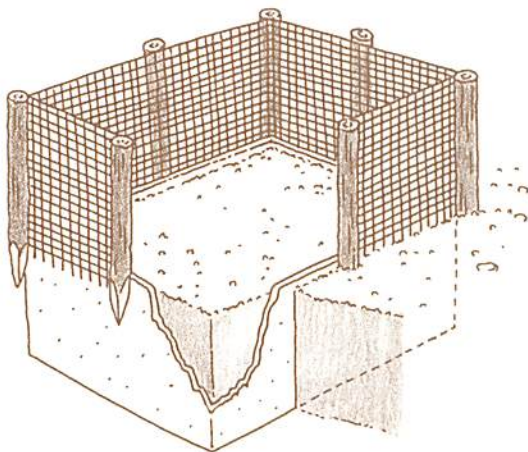
## 1羽で飼育する場合



飼育箱は朝日の当たる場所におき、  
午後の直射日光は避けるようにします。  
夏は温度が上がらないところを選んで

おきます。  
湿気を避け、飼育箱は絵のように  
作りましょう。  
雨や強風が入り込まないように注意し、  
飼育箱は直接地面におかず、地上から  
離しましょう。

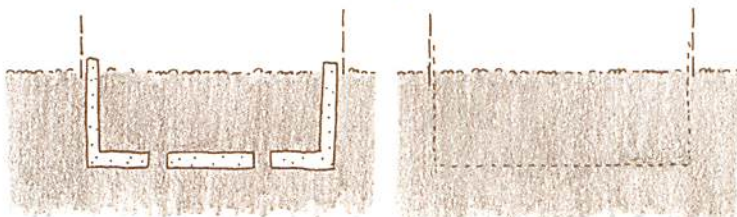
## 集団で飼育する場合



地面にコンクリートの囲いをして、穴を  
掘って逃げられないようにしてください。  
一度囲いを作ると、移動させることは  
難しいので、一年を通じて良い環境の  
場所を選んでください。

オスを2羽以上、いっしょにさせないで  
ください。

いっしょにさせる場合、隠れ家を  
たくさん作ってください。  
U字溝をひっくり返して利用できます。

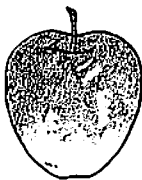
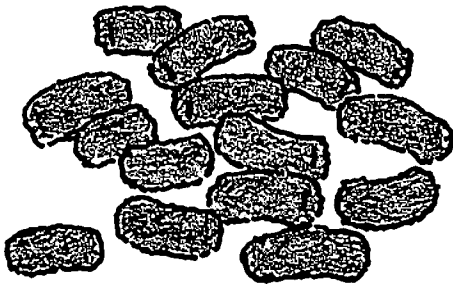
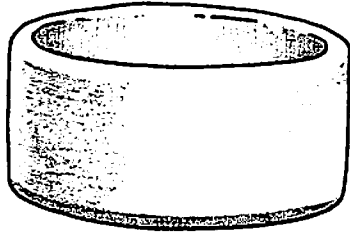


水をぬく穴

コンクリートのかわりに金網  
で地下槽をつくってもよい

# うさぎのたべもの

うさぎのペレットを<sup>あた</sup>与えましょう。  
野菜や<sup>やさい</sup>くだものはすこしずつ<sup>あた</sup>あたらしい  
ものを<sup>あた</sup>与えましょう。  
いつも<sup>みず</sup>せいけつな水を<sup>あた</sup>のめるようにして  
ください。



うさぎは<sup>そうしょくどうぶつ</sup>草食動物です。<sup>くさ やさい こくもつ</sup>草や野菜や穀物などを  
食べます。  
<sup>がっこう</sup>学校で<sup>しゆく</sup>飼育する場合、うさぎ<sup>よう</sup>用ペレットを  
<sup>ちゆうしん</sup>中心に<sup>あた</sup>与えましょう。  
野菜や<sup>やさい</sup>果物や<sup>やそう</sup>野草を<sup>あた</sup>与えてもよいのですが、  
だれがなにを<sup>りよう</sup>どれだけの量を<sup>あた</sup>与えたか、みんなが  
わかるよう<sup>きろく</sup>記録していなければなりません。  
<sup>しゆく</sup>飼育日誌を<sup>つ</sup>付けるように<sup>あた</sup>しましょう。  
<sup>やそう</sup>野草や<sup>じようそう</sup>雑草を<sup>あた</sup>与える場合、<sup>ばあい</sup>毒草や<sup>おくそう</sup>除草剤や  
<sup>はいき</sup>排気ガスの<sup>あた</sup>かかっているものを<sup>あた</sup>与えないように  
しましょう。  
<sup>た</sup>食べ物は<sup>ゆうがた</sup>夕方に<sup>おほ</sup>多く<sup>あた</sup>与えてください。  
いつも<sup>せいけつ</sup>清潔な<sup>みず</sup>水が<sup>の</sup>飲めるように<sup>あた</sup>してください。  
<sup>じめん</sup>地面に<sup>みず</sup>水の<sup>ようき</sup>容器を<sup>お</sup>置いておくと、うさぎが  
ひっくり返して<sup>かえ</sup>しまう<sup>あた</sup>かもしれません。  
<sup>え</sup>絵の<sup>ようき</sup>ような<sup>ようい</sup>容器を<sup>あた</sup>用意してください。



# うさぎのだきかた

すわって、だきましよう。

片手は、首すじの皮をつかみ、

もう一方の手で、おしりをかかえこむように、だきましよう。

耳をもっては、いけません。

せなかをつかむのは、やめましよう。

むりに、おさえて、だっこしても、いやがるだけです。

うしろ足から、やさしく、おろましよう。



うさぎは高いところがきらいです。

地面の上が一番安心できる場所です。

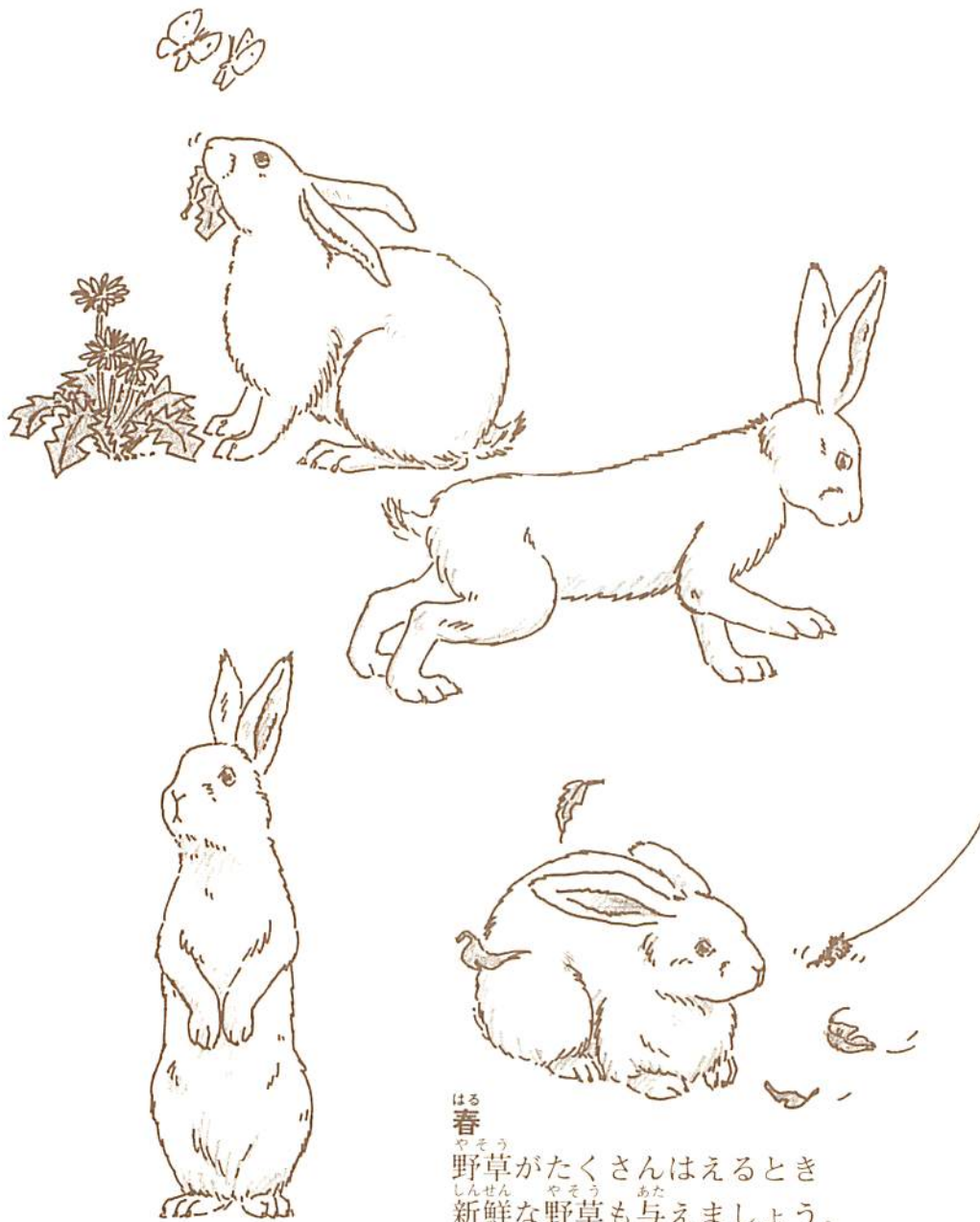
いやなときは、強い後ろ足で、ばたばた

蹴るかもしれません。落としては大変です。

だから、座って抱くのです。

首筋の部分が一番いやがらない場所です。

# うさぎの四季



はる  
春

野草やそうがたくさんはえるとき  
新鮮しんせんな野草やそうも与あたえましょう。

なつ  
夏

高温こうおん多湿たしつに弱よわいので  
雨あめに注意ちゅういしましょう。  
小屋こやの中なかを清潔せいけつにしましょう。

あき  
秋

一年いちねんで一番いちばん過すごしやすい時期じきです。  
冬ふゆに備そなえて、体たい力りきづくりをするために食欲しょくよくが  
おうせいになります。  
たっぷりと食たべ物ものを用よう意いしてください。

ふゆ  
冬

北風きたかぜや雪ゆきに気きを付つけましょう。  
暖あたたかい日ひは日光浴にっこうよくをさせましょう。

# にわとり

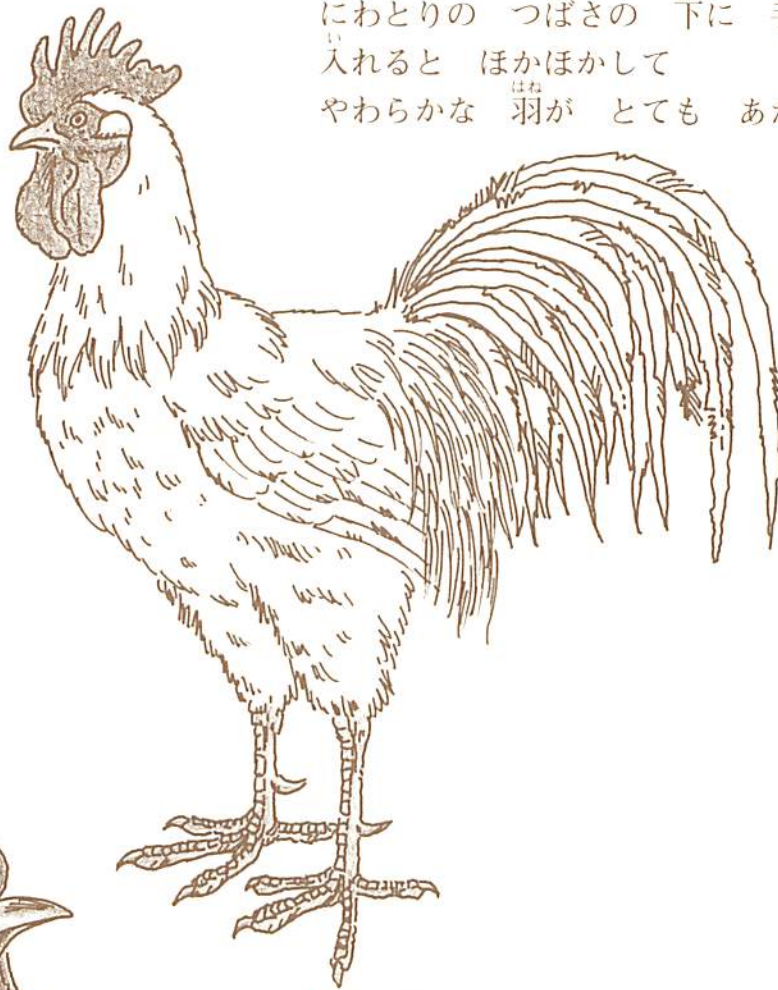
コケッココー。

朝 <sup>あさ</sup> 早く、夜明けを <sup>よあけ</sup> しらせるのは  
おんどりです。

コッコツツ、ココッコ。

めんどりは たまごを うみます。

にわたりの つばさの <sup>した</sup> 下に <sup>て</sup> 手を  
い 入ると <sup>い</sup> ほかほかして  
やわらかな <sup>はね</sup> 羽が とても あたたかいです。



とさか  
鶏冠



にくぜん  
肉垂

にわとりは <sup>そらたか</sup> 空高く <sup>と</sup> 飛べません。

にわとりは <sup>すいめん</sup> 水面を <sup>およ</sup> 泳げません。

にわとりが <sup>にんげん</sup> 人間に <sup>か</sup> 飼われだしたのは

<sup>ちようきより</sup> 長距離を <sup>と</sup> 飛ばず、<sup>ちじよう</sup> 地上に <sup>す</sup> 巣を作り、

<sup>いちにち</sup> 一日の <sup>たいはん</sup> 大半を <sup>ちじよう</sup> 地上で <sup>す</sup> 過ごすからかもしれません。

にわたりの <sup>そせん</sup> 祖先は <sup>なかま</sup> キジの仲間です。

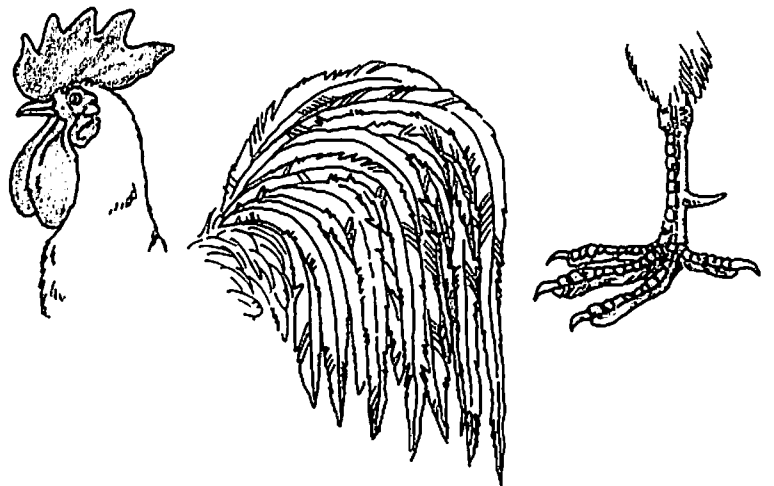
<sup>あたま</sup> 頭に <sup>あざ</sup> 鮮やかな <sup>いろ</sup> 色の <sup>とさか</sup> 鶏冠と <sup>にくぜん</sup> 肉垂 <sup>も</sup> を持っています。

にわとりをよく <sup>し</sup> 知って <sup>じようず</sup> 上手に <sup>か</sup> 飼ってください。

# にわとりのからだ

## おんどり

おおきな とさか。  
けづめの ある つよい 足。  
ながい おばね。



## めんどり

ちいさな とさか。  
けづめの ない 足。  
みじか おばね。



にわとりの羽毛の役目は、  
寒いときでも体が冷えないよう  
なにかが体にあたって傷つかないよう  
にわとりの体を被っています。

尾のつけねにある油の出るところをくちばしでつついて羽毛に塗り付けます。  
乱れた羽毛も整えます。

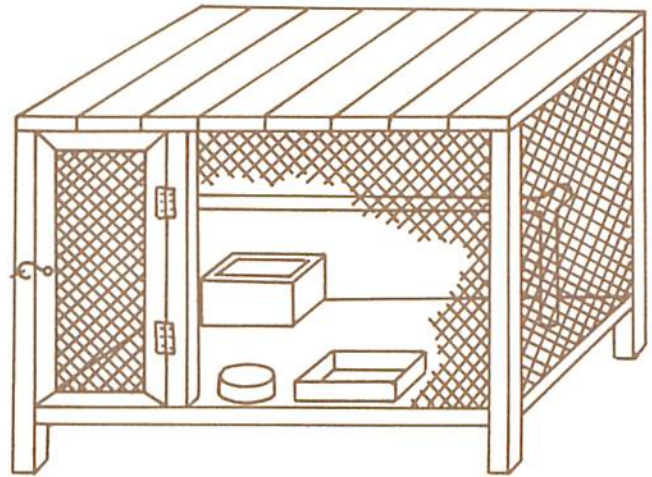
空を飛べないにわとりでも  
ちょっとは飛ぶ力を持っています。そのために  
つばさを力強く動かすための大きな胸の筋肉、  
じょうぶな胸の骨、全身の軽い骨、動かない背骨を持っています。

前足のかわりをするくちばしは  
あごの骨と歯がいっしょになり、よく回る首で  
頭の上以外はどこでもとどきます。

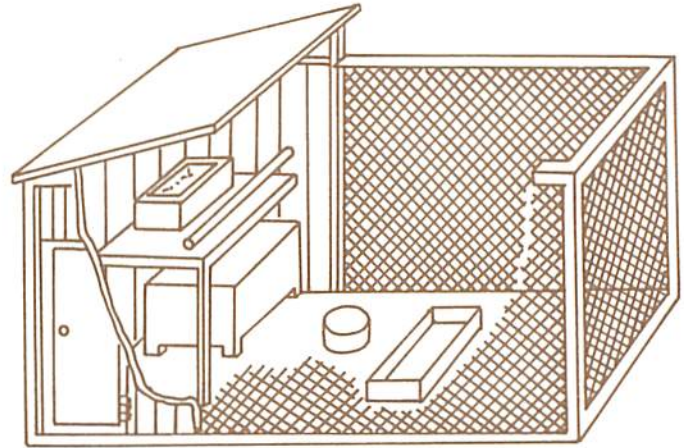
よく見える目で小さなものを見つけます。  
強い大きな足でしっかりと地面に立ちます。

# にわとりの飼育小屋

2,3羽を飼育する場合



10羽位を飼育する場合



餌入れと水入れを用意しましょう。

にわとりがひっくりかえしたり、  
餌入れの中に入らないように工夫しましょう。

砂浴び場を用意しましょう。

きれいで乾燥させた砂を用意しましょう。

にわとりは砂浴びをして体についた虫を落とします。

飼育舎とは別の場所に作りましょう。

暑さよけと寒さよけを用意しましょう。

夏はスダレなどで太陽光線を防ぎましょう。

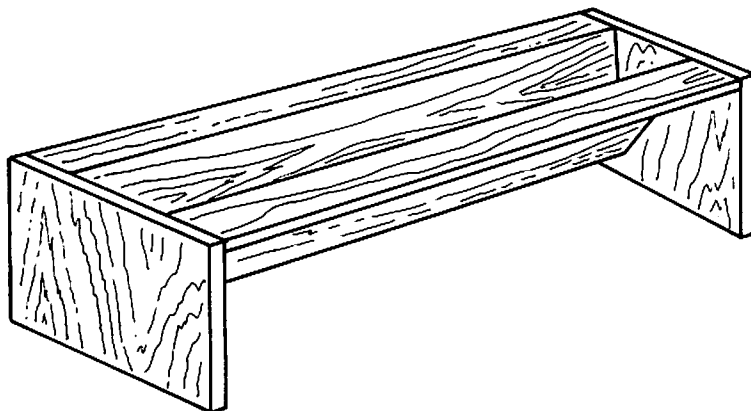
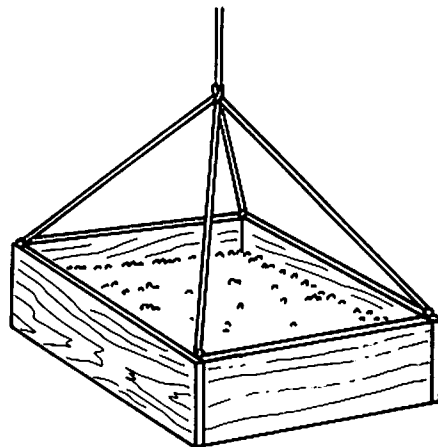
冬はむしろなどですきま風を防ぎましょう。

とまり木を付けましょう。

夜はとまり木の上で寝ると安心して眠れます。

犬や猫やいたちが小屋に侵入しないような  
小屋を作りましょう。

# にわたりのたべもの



## 餌の作り方

とうもろこし粉	20%
フスマ、米ぬか	60%
くず米	10%
魚粉	5%
青菜、貝殻粉	5%

以上の材料をよく混ぜ、水で練ります。

餌がくちばしに付かないくらいの軟らかさに練りましょう。

給食の残りの青菜を与えるときは

細かく（3～5mm位）切りましょう。

学校で作るのが難しい場合、市販の配合飼料を用いましょう。

市販の配合飼料には小ピナ用、中ピナ用、大ピナ用、成鶏用がありますので気を付けて選びましょう。

## 餌と水の与え方

1日2～3回に分けて与えましょう。

朝と昼に与えましょう。夜は食べません。

1回の量は、30分で食べ終わる量にしましょう。

白色レグホン：50～70g位、チャボ：30g位

水も1日2回、新しい水を与えましょう。

# 飼育の注意点

## 毎日すること

えさ入れをそうじして、えさをあげる。  
 水入れをあらって、新しい水を入れる。  
 食べた量を調べる。

寝床のわらを入れ替える。  
 糞便の掃除をする。  
 歩き方や食べ方を見る。  
 からだ全体をよく見る。

## 飼育日誌

毎日つけましょう。  
 見たことを正直につけましょう。  
 次の人に分かるようにつけましょう。

## 1週間に1回すること

小屋の大掃除。  
 体重をはかる。  
 前足や後ろ足の爪を見る。  
 目や耳を見る。

「なにか変だなあ」と思ったときは、先生に相談し、獣医さんにみてもらうことが大事です。

## 飼育日誌の書き方の例

ねん 年	がつ 月	にち 日	とうばん ひと なまえ 当番の人の名前
どうぶつ 動物のなまえ	げんき 元気?	た もの しゅるい 食べ物の種類	た りょう 食べた量
	うご 動きについて感じたこと		
	へん 便について思ったこと		
	せわ 世話をしたときに気づいたこと		
	げんき 元気のなかった動物は		
	た 食べていない動物は		
	つぎ ひ 次の日の当番に連絡すること		

## おわりに

横浜市の小学校では、ほとんどすべての小学校で動物を飼育しています。小学校にいる動物の中で、特に多いのはうさぎとにわとりです。うさぎとにわとりの世話をする人が、うさぎとにわとりの習性をよく知って飼育すれば、病気やけがも少なくなり、元気に過ごすことができます。

この本は、小学生のみなさんがうさぎとにわとりの世話をするときに、知っていて欲しいことや気をつけて欲しいことなどを、動物のお医者さんの集まりである横浜市獣医師会が作りました。ぜひ、参考にしてください。

最後に、この本を作るにあたりご指導いただいた、横浜市教育委員会学校教育部指導第一課長岡本勝利先生、主任指導主事宮本直利先生に深謝いたします。

### うさぎとにわとり

2004年4月1日 第3版発行

発行 社団法人 横浜市獣医師会

〒235-0007 横浜市磯子区西町14番3号

電話 045-751-5032

会長 中川 秀樹

編集 社団法人 横浜市獣医師会学術委員会

飯島 淳志

小柳 惟昭

鈴木 憲太

鈴木 哲也

田中 真治

副委員長 佐藤天希世

委員長 井本 史夫